

◎特集 / 県立図書館 開館 1 周年を迎えて

- いじめ・不登校対策事業の紹介
- 「やまなし」道徳教育推進事業 ～道徳の時間の授業改善に向けて～
- 平成 26 年度 インターハイ開催 高校生が積極的に PR 活動をしています！
- 県立博物館における博学連携「出前授業」
- 動物ものがたり
- 県立文化施設の館長座談会が開催されました
- 「実感できる展示」で「教科書プラス α」の学習を！（博学連携の取組）
- ミュージアム甲斐・ネットワーク / 北杜市オオムラサキセンター、昇仙峡影絵の森美術館
- らくがき 県立笛吹高等学校 上杉尚子 教諭
県立やまびこ支援学校 宮下祥子 教諭
- 埋蔵文化財センター“太古の生活&サバイバル授業”のすすめ
- 学校紹介 / 大月市立大月第一中学校、県立山梨高等学校
- 総合教育センター情報 / 学校教育を支援する実践的な研究を目指して
- 全国養護教諭研究大会の報告
- 都留興譲館高校が来年 4 月に開校します
- 山梨の文化財 / 重要文化財 山梨県酒呑場遺跡出土品
- 主な行事予定



特集

開館一周年を迎えて

— 県立図書館 —

◇ 図書館の二重構造 — 一周年のご挨拶にかえて —

館長 阿刀田高



昨年十一月、甲府駅の北口に新設された山梨県立図書館はめでたく一周年を迎えることとなった。毎日毎日、旧図書館の五倍という利用者を集め、一年間で百万人、予想をはるかに上回る盛況を続けている。県民諸氏の文化的関心の深さに、あらためて感動と感謝を申し述べたい。関係者各位にも衷心より御礼を申し上げます。さらにその背後に図書館員一人一人の尽力があったことも報告しておかなければならない。

なべて同慶の極みであり、このすばらしいスタートを今後はどうつないでいくか、どう続けていくか、当然のことながら展望を深く、長く見すえて心を引きしめていく今日このごろである。各位の一層のご協力、ご理解を期待したい。

図書館の利用には大別して二つのパターンがある。一つは図書館の資料を利用して楽しむこと、寛ぐことを目的とするケースである。若年層の利用はほとんどこれであり、年配者もこれが多い。が、それとはべつに就職情報を探ったり、特許状況を調べたり、科学技術の最新リストにアクセスしたり、言わば生活上の実際的な必要に迫られて通うケースもある。生きるため、と言えればわかりやすいだろうか。

昔々図書館は前者の目的が濃かったが、昨今は後者の必要性もぐんぐん伸びている。この二つはどちらも図書館の本質に関わるサービスであり、五十対五十くらいの割合が望ましい。本館の場合は、私の感ずるところでは三十対七十くらいだろうか。今後の変化を見守り、対応していきたい。

紙の資料（本や新聞紙）を頼りにするか、IT機器の画面を見るか、この利用法の変化も、いま述べた二つのパターンと関わっており、図書館も図書館員もこうした二重構造に対応していくむつかしさを委ねられている。

そしてまた図書館本来の利用に加えて文化的なさまざまな催しのセンターとしての役割も重視されてきている。講演会、講習会、学校との協力、さまざまな集会、同好会……。かくて二重構造どころか三重、四重にも可能性を広げて、きびしくも躍動する志をふくらませている。しかし、どれもこれも県民の理解と参加がなければ果たせないことを、あらためて声高く訴えて一周年のご挨拶とさせていただきます。みんなで頑張ろう。

◇ これまでのイベント

「山梨の皆様には最高の文化を！」という阿刀田館長の想いを受け、図書館では「館長連続講座」の他、「大沢在昌氏講演会」「吉岡忍氏講演会」「朗読21公演」「鴨下信一氏講演会・阿刀田慶子氏朗読会」等を開催してきました。

十一月十七日には、山梨県立図書館開館一周年記念事業「浅田次郎氏講演会」が開かれました。浅田氏は「読むこと、書くこと、生きること」というテーマで、ご自身の経験を踏まえ、読書の大切さを訴えました。後半では、瀧田武彦教育長のコーディネートにより浅田氏と阿刀田館長のトークショーが行われました。



一周年記念事業の様子

◇新たな利用者が拡大中

入館者が開館前の想定を二倍近く上回るというありがたい誤算のため、職員は毎日窓口でのサービス対応に追われています。これまで図書館を使ったことがなかったという方の利用も多くなり、旧館からの常連の方でも自動貸出機やセルフサービスの予約資料棚、座席申込端末の利用など、新しいシステムの利用にはとまどう場面があるようです。どんなことでも遠慮なくカウンターの職員に質問して、図書館を使いこなしましょう。

また、個別の案内以外に連日のように多くの団体の視察や見学を受け入れており、多様な年代層の方に新しい図書館の有効利用を働きかけています。自動貸出機や検索端末なども使っていたりとその簡便でスピーディーな処理に驚かれる方が多く、高齢の方でも抵抗無く利用を試みます。校外学習の子どもたちは、映画「図書館戦争」のロケ現場となった地下書庫に興奮を隠せません。こうした案内によって、どんどん利用の裾野が広がっていくことを期待しています。

◇「読書県」山梨をつくる

阿刀田館長が、山梨を「読書県に」と発言し、自ら講演や講座の講師となつて読書推進の旗振り役を務めるなど、新しい図書館では、多くの県民の方が読書に親しんでいただけるよう取り組みを進めています。その一方、読書に関わる司書やボランティア等を対象とした研修会を開催し、各地域での読書推進のための人材の育成にも努めており、県全体で読書活動を進める環境の整備にも取り組んでいます。

特に、未来を担う子どもたちの読書活動を支える「子ども読書支援センター」では、子どもの読書に関する資料の収集・提供や相談の受付、人材育成、情報発信等によって、子どもの読書活動を進めるため



館内のにぎわい

の支援を行っています。例えば、各地域で活躍する専門家を育成するため、今年度は「児童青少年サービス講座中級編」として、連続講座で中堅司書の選書能力向上を図る研修事業を実施し、高度で実践的な内容に対して参加者から好評を得ています。

子どもたちへのサービスをより質の高いものとするためのモデル事業にも取り組み、七月には「夏休み自由研究・工作おたすけ教室」を実施しました。「調べる」ための図書館利用について学ぶ機会を提供するもので、博物館や研究機関の職員、学校の教員や国際交流員などの県の職員が子どもたちの相談にのり、あわせて図書館のサービスを利用して調べる体験をしてもらいました。「武田氏の戦い方は？」「ソーラーパネルの仕組みって？」と目を輝かせて質問する子どもたちは、きつと将来のヘビーユーザーとして「読書県」を実現してくれるでしょう。

◇入館者百万人を達成

十一月二十日、昨年の開館以降、入館者が百万人となりました。開館当初に想定していた「開館一年で五十万人」の二倍であり、都道府県立図書館のなかでもトップクラスとなります。

百万人目の入館者となられた笛吹市在住の親子三人に、阿刀田館長のサイン入り最新著作などの記念品を贈呈しました。

日頃御来館いただいている全ての利用者に対し感謝申し上げるとともに、引き続き、誰もが気軽に利用できる施設として、県民とともに成長・発展していく図書館を目指して参ります。



「おたすけ教室」相談の様子



セレモニーの様子

いじめ・不登校対策事業の紹介

— 義務教育課 —

1 いじめ・不登校の状況

本県の不登校出現率（全児童生徒数に占める不登校児童生徒数の割合）は、平成十九年度に全国ワーストとなっていました。が、現場の先生方や多くの関係者の努力により、その後は減少を続け、平成二十二年には全国と等しくなり、平成二十三年度も、ほぼ全国と同程度となりました。

また、一昨年天津市で発生したいじめによる生徒の自殺が大きな社会問題となる中、いじめの緊急調査の結果を、昨年十月末に公表しました。平成二十四年度当初から、九月までで、公立小学校では一、一五六件、公立中学校では一、二三五件の合わせて二、三九一件となり、平成二十三年度一年間の公立小中学校における、いじめの認知件数四五四件を、大幅に超える結果となりました。いじめ解消への第一歩は、いじめを認知することであると考え、引き続き組織的な早期発見・早期解決及び未然防止の取組等を、各学校にお願いしています。いじめは、「どの子にも、どのクラスにも、どの学校にも起こりうる」として、未然防止と早期対応が求められているところです。

2 事業の内容

山梨県教育委員会は、いじめ・不登校対策を、最重要課題として取り組んでおり、その事業について紹介します。

①スクールカウンセラー活用事業

平成二十五年度には、心理の専門家を全公立中学校及び小学校五十六校、高等学校六校へ配置しました。また、各校の要請に応じてスクールカウンセラーを派遣する事業も行っています。特に、スクールカウンセラーを小学校へ拡充したことや、学区の小中学校の連携が図られたことが、不登校者数の減少に大きな効果を上げています。

②スクールソーシャルワーカー活用事業

児童虐待にみられますように、児童生徒を取り巻く環境は、大きく変化してきています。そこで、平成二十年度から、福祉的な視点で児童生徒をケアしていくための事業を展開しております。平成二十五年度は、計十一名の社会福祉士や精神保健福祉士の資格をもった方をスクールソーシャルワーカーとして各教育事務所に配置し、学校からの相談をお受けしております。

③いじめ不登校指導者研修会

例年、七月末にいじめ不登校指導者研修

会を開催し、「ブリーフセラピー（短期療法）」という手法（問題や病理、原因にこだわるのではなく、クライエントのもっているリソース・解決像に焦点を当てる方法）についての研修を行っています。

④その他

保護者を対象にした「不登校研修会」、県下八会場で実施している「地域連携子どもと親と教師のための教育相談事業」、総合教育センターで行っている「二十四時間電話相談」、また県下三方所（韮崎、石和、都留）にある適応指導教室「こすもす教室」などの取組もいじめや不登校の対策として、効果をあげています

3 未然防止の観点から

また、道徳的価値の自覚を深めるために、豊かな心をはぐくむ「やまなし」道徳教育推進事業を通して、道徳教育の充実もお願いしているところです。

いじめや不登校への対応は、『未然防止』が大きな対策の一つともいえます。児童生徒にとつて居場所となる魅力ある学校づくりへの取組をこれからも願っています。

「やまなし」道徳教育推進事業

～道徳の時間の授業改善に向けて～

― 義務教育課 ―

県では、道徳教育の充実や道徳の時間の授業改善につなげるために、今年度から「やまなし」道徳教育推進事業を行っております。この事業は、全小・中学校の道徳担当者に参加していただく研修会と、各地区の研究推進校で行う授業研究会を関連させて実施しています。このことにより、道徳的価値の自覚を深めるための授業の在り方について、実際の授業を参観しながら学ぶことができます。

八月に行われた第二回目の研修会では、道徳の授業づくりの視点について学びました。その際、講師の東京学芸大学の永田繁雄教授が、道徳の授業について大変興味深いことを話されました。それは、平成二十四年度に「道徳教育の指導法」を受講している学生を対象にした「小中学校で受けた道徳の時間に対する印象」をまとめたものでした。その概要を紹介します。

○ 全体的な印象

- ・ 国語との違いがわからなかった
 - ・ 先生によって取り組み方が違っていった
 - ・ 他の学習に変わりがちな時間だった
- ◇ プラスの印象
- ・ 温かく穏やかな気持ちになった

- ・ 自分と向き合うことができた
 - ・ 様々な人のことを考える特別な授業だった
- ◆ マイナスの印象
- ・ 先生の答えに引きずられる感じがした
 - ・ 正解のようなものが見えていた
 - ・ 当たり前のことを言っている感じがした

指導する私たちにとっては少し耳の痛い話でしたが、授業改善の視点として大変参考になるものだと思います。また「プラスの印象」にあるように、道徳の時間の特質を踏まえた授業を行えば、子供たちにとって特別な時間となることも確認することができました。

そこで、道徳の時間の特質を踏まえ、児童生徒だけでなく、私たち指導者にとっても魅力ある時間にするために二つのポイントを提案いたします。

一 価値について自分との関わりで考える

道徳の時間の学習の中心である「道徳的価値の自覚を深める」ためには、図1にあるように①道徳的価値の理解、②自分との関わりで道徳的価値をとらえる、③思いや課題を培う学習を行う必要があります。これまでの道徳の時間は、①の価値について

の理解だけに留まっていた授業が多かったように感じます。「価値についてこれまで自分はどうだったか」「どのように考えたらよい生き方につながるか」など、自分との関わりで考える場を設定しましょう。

二 指導者も共に考える場面を設定する

価値について自分との関わりで考える場面は、教師自身も自分のこととして捉え、「教える」というよりは児童生徒と共に考えてみましょう。

道徳の時間の学習の中心
道徳的価値の自覚を深める

◆ 道徳的価値の理解
価値理解・よさ、大切さ、素晴らしさなど
人間理解・人間の弱さ、もろさなど
他者理解・自分と異なる多様な感じ方、考え方

◆ 自分との関わりで道徳的価値をとらえる
自分のこととして考える場の設定（発問や話し合い）
（心情を問うだけでは深まらない）
道徳的価値を他人事ではなく自分の問題としてとらえる

◆ 自分なりに発展させていくことへの思いや課題を培う
道徳的価値にかかわる課題を培うために、現在の自分自身を知る。
・ 自分はこれまでどうだったか ・ なぜ、行動できたのか
・ どう考えたらできそうか ・ どう考えることが大切なのか等

図1 道徳的価値の自覚を深めるための3つの事柄



平成26年度インターハイ開催 高校生が積極的にPR活動をしています！

— 全国高校総体推進室 —

1 300日前カウントダウンイベント

平成25年10月6日(日)に東京駅前の商業施設KITTE(キッテ)で、4都県(東京都、千葉県、神奈川県、山梨県)合同の「300日前カウントダウンイベント」を開催しました。山梨県からは、生徒実践委員会委員5名が、先催県から後催県に引き継がれている友情の花の伝達式等に参加しました。また、今年度北部九州インターハイへ出場した韮崎高等学校サッカー部(男子)と日本航空高等学校卓球部(女子)が、来年度へ向けての意気込みを語りました。



その他、会場周辺では、生徒実践委員会の生徒が、大会パンフレットや花の種等を配布し平成26年度インターハイをPRするとともに、来場した皆さんからメッセージフラッグに応援コメントをいただく取り組みをしました。



2 巨大広告完成

平成25年11月9日(土)に山梨県県民会館北側の壁面に大会をPRする巨大広告が完成しました。広告は、縦4m×横10mのサイズで、県立桂高等学校3年生の山口真以さんがデザインを手掛けた。

した。

また、山口さんは、11月11日(月)に、古屋茂校長先生、顧問の柳田裕子先生とともに瀧田武彦県教育長を訪問し、「明るい配色にした富士山を中心に置き、県の花であるフジザクラの花びらを並べた。山頂を望む高校生の横顔は、日本一を目指す選手の思いを表現した。」とデザインの意図を説明しました。



3 高校生活動報告

平成25年10月27日(日)に山梨学院ホッケースタジアムにおいて開催された県高等学校ホッケー新人大会で、生徒実践委員会ホッケー分科会の生徒が大会参加者や応援の保護者などにポケットティッシュを配布し大会をPRしました。



今後とも、平成26年度インターハイ開催に向けて、各学校の支援連絡会委員の先生方を始め、皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。

【問い合わせ】

公式ホームページ <http://www.2014soutai.jp>
全国高校総体推進室 TEL 055-223-1640

県立博物館における博学連携「出前授業」

— 県立博物館 —

山梨県立博物館には博学連携事業の一環として、出前授業があります。この出前授業は博物館の学芸員や教育主事が県内の小・中・高等学校の要請により出張料・講師料無料で行っています。ここでは小・中学校の出前授業の様子を紹介します。

○小学校三年生社会科

「昔の暮らしを学ぼう」

博物館には昔の道具がたくさんあります。その中から学芸員がとっておきの道具を選び出し子どもたちにみせます。いったい何が見られるのか、何が体験できるのか子どもたちは興味津々です。

一応の説明が終わった後、いよいよそれぞれの道具との対面です。石臼にむらがる子どもたちは我先に石臼を回そうとします。本来なら小麦やそばなどをひかせたいのですが、出前授業時はお米を使います。米粒を少しずつ穴に入れていくと「なんにも出てこない」と言う子ども、「方向がちがうんじゃない」と別の方向に回す子どもなど様々です。でもそんな試行錯誤しながらお米が粉になって出てきたときの子どもの表情は



とても輝いています。さてみなさん、子どもは次に何をするとおもいますか？

実は写真にもあるように、白い粉を食べ始めるのです。米の粉

を口に含んだ児童は「なんにも味がしない」とちよつと不満げな態度をとります。ところが次から次へと米粉を食べる子どもが増えてきて服や口を真白にしながら、勢いよく食べ始めます。子どもは何でも口の中に入れる。でも多くの児童は楽しそうです。

小学校六年生では「武田信玄」「鎌倉」などの出前授業もあります。

○中学校への出前授業としては

「ふるさと学習」があります。

一年生から二年生にかけて県内めぐりを行う学校があります。この最初のオリエン

テーションで山梨県内の見どころを紹介しています。

生徒の目は生き生きとしていてこれからはじまる授業に興味津々です。山梨県の白地図で自分が住んでいる市町村を探します。分かった生徒が悩んでいる生徒に教える様子は微笑ましいです。

山梨県立博物館の学芸員・教育主事は依頼をうければ、学校の要望に応える出前授業を行いどこへでも出張いたします。



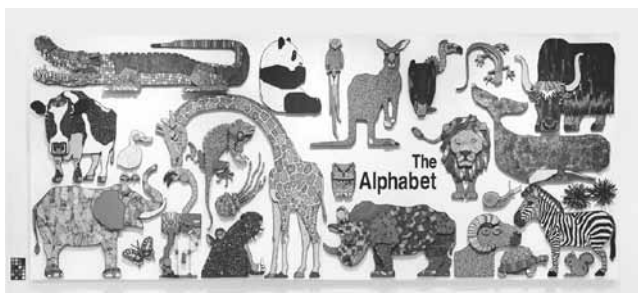
お問い合わせ
山梨県立博物館

電話 ○五五―二六二―二二七八
FAX ○五五―二六一―二六三二

動物ものがたり

— 県立美術館・県立図書館 —

【美術館からのクリスマス・プレゼント & お年玉企画展 動物ものがたり】



早野恵美 《The Alphabet 26》

動物は、絵のモチーフになったり、絵本や物語の主人公になったりと、美術・児童文学の世界でも大活躍。そんな彼らを名作絵本やロングセラー絵本の原画、昔懐かしい童画などによって紹介します。

絵本の原画では、さとうわきこの「きのいいサンタ」、三好碩也の「子うさぎましろのお話」、スズキコージの「ガラスめだまときんのつなのヤギ」、堀内誠一の「ぐるんぱのようちえん」、薮内正幸の「どうぶつのおやこ」などを展示します。



スズキコージ『ガラスめだまときんのつなのヤギ』
(福音館書店) 原画 ©Koji Suzuki

展示室には絵本が読めるコーナーやつくって楽しむスペースもあります。

関連イベントとして、クリスマスやお正月にちなんだ手作りワークショップや、動物が主人公の心温まる映画会などを開催します。

※つくって楽しむスペース「森の図工室」は土日と冬休み（12月21日～1月8日）にオープンします。

会期：12月14日（土）～1月19日（日）
料金：一般1,000円 大高生500円
中小生260円

【関連イベント】

■つくろう！あそぼう！造形広場

日時：12月14日（土）、1月18日（土）
13：30～15：30

場所：ワークショップ室

対象：幼児から小学生とその家族

申込み不要、参加無料、先着100名程度

■創作教室（クリスマス・スペシャル）

「ダンボールでつくろう」

日時：12月21日（土）10：00～15：30

場所：総合実習室、ワークショップ室

対象：小学生以上

講師：本杉琉氏（造形作家）

定員30名程度、参加費300円程度

申込み：11月21日（木）～12月20日（金）

■ミュージアム・シアター

「山ねずみロッキーチャック」

日時：12月21日（土）13：30～

場所：総合実習室

申込み不要、入場無料

お問い合わせ

TEL055-228-3322 FAX055-228-3324
山梨県立美術館

県立美術館で動物たちの原画や童画を楽しんだ後は、県立図書館で動物たちが活躍する名作絵本や児童文学の数々に触れてみてはいかがでしょうか。

「動物ものがたり」展で展示している作品は、県立図書館でも絵本等の所蔵があり、貸し出しもできます。ゆっくり楽しみたい方は、図書館もご利用ください。

お問い合わせ

TEL055-255-1040 FAX055-255-1042
山梨県立図書館

この機会に、是非、美術館、図書館にお越しいただき、かわいく、頼もしい動物たちと一緒に楽しい冬休みをお過ごし下さい。

県立文化施設の館長座談会が開催されました

— 学術文化財課 —

去る七月三十一日、県立図書館において、県立図書館、美術館、博物館、文学館の館長が一同に会し、座談会が開催されました。それぞれの館長さんの発言の一部をお届けします。

県立図書館 阿刀田 高館長（平成二十四年〜）

図書館に一番大切なのは「人」であると考えています。図書館の命、といわれる本ですら2番目、建物は3番目だと思っています。

先日、高校生と館長を囲んで話をするというを行いました。この集まりの一番大切なところは「生身の小説家が目の前にいる」ということ。実物をみせてあげることがとても大事だと思います。



また、読書については、どうやって「自ら本に手をのばす子ども」を育てるかが課題で、そのためには、「読み聞かせ運動」より「読み聞かせれ運動」の方が大切だと思っています。

県立美術館 白石 和己館長（平成十八年〜）

県立美術館は、開館当初から、優れた美術に気軽に親しんでいただきたいということで、「開かれた美術館」を大きなテーマとしています。休みの日に家族で買い物に行こう、映画でも見よう、という中に、美術館に行ってみようと、すぐ思い浮かんだり、県外からお客さんが来たら、自分の応接間みたいに連れてきていただければ良いと思っています。



また、美術館は教育普及事業を幅広く、きめ細かく行っています。学校への対応だけでなく個人参加型の事業も増えています。

県立博物館 平川 南館長（平成十七年〜）

県立博物館は「山梨の自然と人の関わり歴史」を解明していくことを基本テーマとしています。県立博物館は、本県には博物館が必要か必要ないか、で大きな議論が戦わされ、そこから立ち上がってきました。博物館は、その地域社会が一番重きをおいている価値観を反映させる施設であり、本県が、将来にわたって何を一番大事にすべきかを常に問い続けて行かなければなりません。



富士山についても、世界文化遺産登録を期に、歴史文化の面で本格的な調査研究を行い、国内外に発信していきます。

県立文学館 三枝 昂之館長（平成二十五年〜）

なぜ、山梨県に県立文学館があるか、飯田蛇笏、龍太の俳句の風土が大きいと思います。全国でも正岡子規の愛媛県と山梨県の二つが非常に大きな風土で、これは、山梨県の大きな財産です。



県立文学館は、より高度な文学といったものを提供することを通じて、文学の魅力を浸透させていく、そのことが文学の裾野を広げることに繋がると思っています。

来年、NHKの朝のテレビ小説「花子とアン」にあわせて、村岡花子の展示会を検討しており、文学館ならではのものにしていただいています。

当日は、約百人の方にご聴講をいただき、高野孫左門教育委員長をコーディネーターに、各館の役割や学校との連携、これからの文化振興について、忌憚ないご発言をいただきました。

「実感できる展示」で「教科書プラスα」の学習を！（博学連携の取組）

— 県立考古博物館 —

資料の収集と展示は、博物館として重要な役割の一つです。しかし、同時に博物館にはこれらの資料を普及、活用するということも求められています。展示室のガラスケースの中に並べられている土器や石器が一体どんな物語をもっているのか、展示を静かに鑑賞するだけではわからない歴史の世界を、考古博物館では体験学習の場で学ぶことができます。

博学連携の取組組みとして学校での総合的な学習の時間や夏休みの自由研究での考古学や社会科歴史分野の研究を表彰する「わたしたちの研究室」を毎年開催しております。学校での学習という土台の上に、さらに自分で調べ主体的に考え研究する力を養う機会として学校教育での取組組みの中でもご活用

いただきたいと思います。なお、ご応募いただいた研究成果は、専門家による厳正なる選考を経て表彰し、すべての研究成果を考古博物館にて展示、紹介しま



す。今年度は表彰式と受賞作品の研究発表会を平成二十六年二月九日(日)に、展示会を二月十日(月)より開催します。

また当館は山梨県の歴史を考古資料をとおし紹介しておりますが、考古資料は視覚的にも児童生徒に対して実感がわきにくいものも多く、そこで小中学校を主とした古代衣装レプリカ教材貸出事業をおこなっております。これは「考古博物館」というハードが整っているところで、これらを活用した教材というソフト面での連携が学校とできないかという主旨の下に開発した教材です。衣装は奈良県明日香村の高松塚古墳の壁画に描かれた女官の服をはじめ古墳時代の巫女の衣装など五種類を用意し、細部に至るまで忠実に再現しています。小学5、6年生の平均身長をもとにサイズを算出し、さらに授業内で気軽に着替えられるよう、着ている衣服の上から羽織れることを考慮した上で縫製したことにより、当時の上流階級のゆったりとした着用の様子も再現できました。着用についてはそれぞれの衣装にマニュアルが付属しておりますので、初めてでも着用方法に迷うことはありません。社会科の授業で当時の服装を着用体験するだけでなく、サイズの上から着用できない高等学校においても、マネキンに着せて見ることや当時のデザインや服飾技術を学ぶことも可能であり、さまざまな視点から発展的に活用できる教材となっております。

展示を見学するだけでなく、こうした教材をご利用いただくことで歴史の一端を身近に感じ、時代的なイメージを膨らませる一助となるのではないのでしょうか。

この古代衣装の貸出は無料で行っておりますので、まずは考古博物館までお気軽にお問い合わせください。

なお、教育課程における考古博物館の見学の場合は、事前の申請により観覧料が免除となります。詳細は当館ホームページに掲載しておりますので、ぜひご活用ください。



ミュージアム甲斐・ネットワーク

～県内博物館等の連携による活動の活性化と利用者サービス向上を目指して～

— 学術文化財課 —

県内の美術館、博物館等が、相互に連携して活性化を図り、活動の充実や利用者へのサービスの向上を目指す「ミュージアム甲斐・ネットワーク」会員施設の紹介をします。

北杜市オオムラサキセンター（北杜市）

オオムラサキセンターのある北杜市長坂町は国蝶オオムラサキの日本一の生息地として知られています。昭和54年に住民が中心になって、オオムラサキを守る会が発足しました。オオムラサキの保護への関心が高まる中で、平成7年10月に拠点施設としてオオムラサキセンターが開館しました。

現在は、オオムラサキセンター本館と森林科学館、生態観察施設の3施設があり、周辺には7ヘクタールの里山自然公園があって棚田や雑木林、水生昆虫観察沼で里山の生態系を体験学習できます。

館内には世界各地のチョウを中心に9,000点の昆虫標本が解説付きで展示しており、オオムラサキの生息環境である里山林のジオラマや検索機器を活用して環境教育に役立てることができま

す。1,400㎡の生態観察施設では、オオムラサキの四季折々の

生態を間近に観察することができ、夏季には虫捕り体験もできます。

この他、雑木を材料に工作体験も可能です。

住 所 北杜市長坂町富岡2812
電話番号 0551-32-6648
休 館 日 月曜日、祝日の翌日、夏季は休館日なし
開館時間 9:00～5:00（4月～6月、9月～11月）
 8:30～19:00（7月～8月）
 9:00～16:00（12月～3月）
 入館は閉館30分前まで
入 館 料 大人400円（20名以上は300円）
 小中学生200円（20名以上は150円）
U R L <http://oomurasaki.net>



オオムラサキセンター全景



昆虫標本展示



昆虫ふれあい体験

昇仙峡影絵の森美術館（甲府市）

昇仙峡影絵の森美術館は1992年に開館し、世界で初めての影絵常設美術館として、1994年にはギネスブックに認定されました。

作者・藤城清治氏が自ら監修設計した影絵の展示室は地下にあり、真っ暗な部屋の中で赤・青・黄色・緑・紫等のファンタジックな色彩や光がうむ美しさは、幻想的で魅力にあふれ、癒しの世界が広がっています。

企画展示は、開館20周年記念「山下清特別展」を開催。日本のゴッホ・放浪の天才画家・裸の大将などと、皆様に親しみのある山下清氏の、ペン画・貼り絵・版画を約50点展示しており、心あたたまる作品の数々を楽しんで頂くことができます。開催期間は平成25年4月から平成26年3月末日までとなっております。

又、企画展の同時開催として、大正ロマン・竹久夢二展、漫才師内海桂子の、どどいつ絵画展も行ってまいりますのでこちらも是非、お楽しみください。

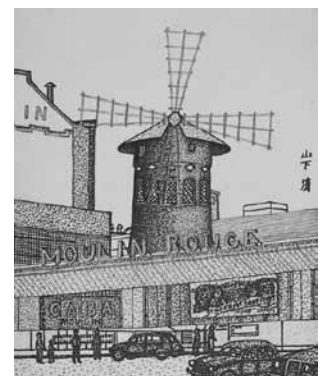
住 所 山梨県甲府市高成町1035-2
電話番号 055-287-2511
休 館 日 年中無休
開館時間 9:00～17:00
入 館 料 一般800円・中高生500円
 小学生400円・園児200円
 ※入館されたお客様にはソフトドリンクとオリジナルクッキーの無料サービス
 （20名様以上一般700円、小・中学生の遠足は特別料金、障害者割引有り）
U R L <http://www.kageenomori.jp>



昇仙峡影絵の森美術館外観



© 藤城清治「コスモスとこびと」



© 山下清「ムーランルージュ」



らくがき

「知る」楽しみ
上杉 尚子

学生の頃お世話になった先生が古稀を迎え、いよいよ大学を退官なさる。先日その記念の会に参加した。先生をはじめ懐かしい顔ぶれに再会できたことはもちろんだが、何よりも嬉しかったのは、「一教え子」に戻れたこと。普段とは逆の立場になり、私が学生の頃とまったく変わらぬ口調で語られる先生の言葉を、しっかり心に留めておこうと聴いているのは、とても楽しかった。

教わる立場にあった頃の私は、話を真剣に聴いて自ら学ぼうとする学生ではなかったと思う。やらされている感満載だった。でも、この仕事に就き、多くの人にいるようなことを教えてもらうようになってから、自分が知らなかったことを知る楽しさや新しい発見があったときの嬉しさが、やっと理解できたような気がする。自ら学び、吸収することの楽しさがようやく分かってきた。

「どうせ分からないし。」「やっても意味ないし。」と学ぶことをあきらめてしまっている生徒が少なくない。そんな生徒たちに「今からでも遅くはない！何とかしなくては！何かについてもっと知りたい！と思ったときがチャンスなんだ！」ということ伝えられたら、と思う。そして、いつまでも生徒とともに学び成長できる自分でありたいと思う。

(県立笛吹高等学校)



「輪」と「和」
宮下 祥子

2020年のオリンピック開催地が、東京に決定した。オリンピックで知られる五輪のマーク。5つの「輪」は、世界の五大洲を表していて、世界の人々がスポーツで手をつなぎ合おうという意味があるとのことだった。「輪」は、人とのつながりを表すときに使われる。私たちは、いろいろな人とのつながりの中で生活をしている。仕事をしていく上でも、人とのつながりは、とても大切だと感じている。

私は、学生時代、仕事をするときに心がけることの1つに「和を大切にすること」を覚えてもらった。その先生は、「自分1人の力だけでは、良いクラスが作れない。」と話していた。

「和」には、互いに相手を大切にすること、協力し合う関係等というような意味がある。先生が話していたように、クラス運営だけでなく、様々な場面で「和」の大切さを感じることも多くあった。

「輪」と「和」、これら2つとも、仕事をするときに大切なことだと思う。今、私が働いている支援学校では、チームティーチングで授業を行っているので、特に大切だと思い、これら2つを心がけてきたつもりである。

オリンピック開催地決定に沸き、五輪のマークを多く目にした今年。もう1度原点に戻って、「輪」と「和」を考える機会となった。

仕事だけでなく、どんな場面でも、大切にしていきたい。

(県立やまびこ支援学校)

“太古の生活&サバイバル体験授業”のおすすめ

— 県埋蔵文化財センター

考古資料貸出

県内各地の学校を対象として、考古資料・火起し道具などの貸出しを行なっています。

今年度は新しく、伐採用の磨製石斧を本物の素材で試作しました。太古の生活の技を身体で学ぶ機会を提供します。

出前支援授業

学校等を対象に「出前支援授業」などの支援事業を行なっています。当センター職員が学校に“道具”を持参

し、火起し・勾玉作りなど体験型の授業を支援いたします。

授業内容や時間に応じた組み立ても可能ですので、お気軽にお問い合わせください。

◆お問い合わせ 県埋蔵文化財センター 資料普及課

電話 055-266-3016

Fax 055-266-3882

URL <http://www.pref.yamanashi.jp/maizou-bnk>



“伐採”体験用に 石斧を復元しました！



出前支援授業(火起し体験)

明日の大地に、一中魂の種を蒔く ～地域に支えられ、愛された27年間～ 大月市立大月第一中学校

昭和62年春、笹子中学校と初狩中学校とが統合。校名も校歌も制服も校舎も何もかもが新しくなり、大月第一中学校は産声をあげた。以来27年。教職員・保護者・地域が一体となって生徒の教育にあたり、全教育活動を通じて地域との連携を大事にしてきた。学校教育に対して理解があり協力を惜しまない地域のお力添えをいただきながら、田植えから収穫までの一連の農作業を1年生から3年生までの各学年が分担し、収穫した米や野菜をカレーライスや餅にしてお世話になった方々に振る舞う「収穫祭」は、学園祭「創建祭」とともに毎年盛大に行われてきた。しかし、開校当時217名を数えた生徒も今は65名。今年度をもって大月東中学校と統合し閉校となることになっている。

本年度は「一中最後の年」「明日につながる節目の年」として様々な取組が計画されている。とりわけ、生徒会企画の「学園祭に校歌を卒業生と合唱する」取組は、卒業生・保護者・地域の方々・大月吹奏楽団・学校応援団など多くの方々の賛同を得て、当日は200名を超える大合唱となった。皆の胸に迫るものがあり、会場は感動で満ちあふれた。

3月まで閉校記念事業は続くが、地域の方々に「中学校があるなあ」「中学生がいるなあ」と実感していただく場面を大切にしながら、地域とともにある学校としての誇りを胸に、「明日の大地に一中魂の種を蒔く」を合い言葉に一丸となって頑張ってきた。閉校の後、この校舎は改修されて「初狩小学校」として生まれかわる。



◇学校応援団と田植え



◇収穫祭の餅つき



◇卒業生と校歌の大合唱

「自分を生かす」キャリア教育 ～『テーマスタディ』の取り組みから～

県立山梨高等学校

本校では、いかに学び、いかに生きるべきかを考えさせるために、「総合的な学習の時間」を『テーマスタディ』として実施しています。1年では「自己を知る・社会を知る」のテーマから出発し、2年では「進路研究」でインターンシップを全員が行います。3年では「進路実現を目指して」で3年間の学習を完結します。

◇インターンシップからの「進路学習」◇

夏休みに行う2年生全員のインターンシップは、9年目を迎え、本校の特色の一つになっています。今年度は、医療機関（看護・栄養・理学療法等）や保育園・幼稚園、福祉施設、公的機関（市役所・図書館等）をはじめ、地場産業（ワイン工場、フルーツ公園等）など、60余の事業所が受入に協力してくださりました。

4月からの事前学習をふまえた、このインターンシップは、「今の自分に足りないものに気づいた」り、「もっと自分を高めなければ通用しない」現実に目が開かれ、「これからどんなことを学ぶべきか考えた」（生徒のレポート）など、成長ぶりがうかがわれる、充実した夏の行事になっています。

◇8講座の「ゼミ」展開中◇

3年次になると、個々の進路実現に向けた取り組みが本格化し、9月からは「生命と健康～人として生きる～」「科学技術の光～人類の英知とその行方～」「異文化に触れて～世界の中の日本・山梨～」「社会の中の自分～自己実現～」等の8講座が開かれます。各講座で、専門家の講義や実技指導、ディスカッションなどが展開されます。



保育園でのインターンシップ



身体表現の実技指導



旅館の女将さんとの座談会

学校教育を支援する実践的な研究を目指して

— 総合教育センター 研究開発部 —

山梨県総合教育センターでは、「学校教育を支援する確かな情報発信源としての総合教育センター」を基本方針に、本県の学校教育の振興と充実に寄与しようとしています。こうした認識の下に、各学校が抱える今日的かつ喫緊の教育課題を把握し、その課題解決のための調査研究や指導方法等の研究及び開発を進めています。

研究開発部では、センターの基本方針を受けて、「学校教育を支援する実践的な研究」を全体研究テーマに掲げ、研修主事による具体的な実践研究を企画・推進し、研究成果を県内各学校や他の教育機関に向けて普及・広報を行っています。また、本県の学校教育の向上に寄与するために、各学校の研究活動への相談・支援等を行うなどの業務を行っています。

○総合教育センターの研究について

センターの研究分野における最大の役割は、本県の学校教育へのより実践的な支援を行うことです。そのことを自覚し、研究を深めることを目的として、「グループによる共同研究」を推進しています。具体的には、喫緊の教育課題について研究することを念頭に、「防災教育研究」「理数教育研究」「言語活動研究Ⅱ」「教育相談研究」「特別支援教育

研究」「情報教育研究」「ICTの活用研究」「校務の情報化研究」「教育課程実施状況調査研究」の九つのグループを編成して取り組んでいます。研究の内容によっては、数年次計画で進められるものもあります。各研修主事は、これまでに本センターが行ってきた研究や、新学習指導要領、山梨県学校教育指導重点、各学校へのアンケートなどを踏まえて、学校現場のニーズにできる限り沿った研究主題を設定し、県内の研究協力校の支援を得ながら、実践的なセンター研究に取り組んでいます。



なお、研究成果の

発表の場として平成二十六年二月二十四日(月)に研究発表大会を開催します。本年度は、グループ研究の理論的な支えとして「言語活動の充実」で著名な横浜国立大学の高木展郎教授の特別講演も予定しています。多くの教育関係者に来所いただき、御意見をお願いするとともに、学校現場での指導改善のための機会としてくださるよう祈念しております。

○一般留學生の研究について

県内学校教育のリーダーとなる人材の育成を目的として、本年度は三名の一般留學生が、「主体的に学び、思考力・判断力・表現力等を高めるための国語科指導の在り方に関する研究」「思いや意図をもって表現する力を育てる音楽科指導の在り方に関する研究」「学習意欲を高める指導と評価の方法に関する研究」をそれぞれの研究テーマとして本センターの主事の指導や各学校の支援の下、現場での授業実践と検証を重ねながら研鑽に励んでいます。

○情報・資料収集と学校支援について

研究開発部では、県内外の学校と教育機関から研究紀要や学習指導案、研究文献を収集し公開しています。センターのHP上の「コンテンツデータベース」から検索すると必要な情報が得られます。また、県内各学校の研究主題や本センターの研究紀要等の研究分野における様々な情報は同じくHP上の「調査・研究」のページから御覧になれます。HPの更新は随時行っていますので、御活用ください。

今後も、学校現場に必要な情報の提供や研究等の支援に鋭意努めてまいります。

学校・家庭・地域が連携した学校保健活動を目指して… 平成25年度全国養護教諭研究大会を開催しました

スポーツ健康課

8月8日、9日の両日、猛暑の中、全国から約900名の養護教諭、学校保健関係者を迎え、甲府市総合市民会館他5会場で、全国養護教諭研究大会を開催しました。

1日目の全体会では、順天堂大学大学院 島内憲夫教授から、学校内外の関係者との連携づくりの中心的な役割を養護教諭が果たし、学校が夢のある楽しい場所となるよう、子どもへの働きかけを行う必要があるとの記念講演を伺いました。

また、文部科学省の岩崎信子健康教育調査官からは、学校保健活動における養護教諭の役割について基調提案をいただき、シンポジウムで、学校医、行政、校長、養護教諭から地域連携の取組が報告され、参加者を交えて討

議を深めました。

2日目は8つの課題別研究協議会に分かれ、実践報告を受けて、意見交換が活発に行われました。

この大会では、県内養護教諭は、9名が発表者として実践発表を行うだけでなく、大会の運営と研究協議に積極的に参加し、大会はおもてなしの心あふれる充実したものとなりました。

この大会を通して、養護教諭の専門性を踏まえて、地域連携を基盤に幅広い学校保健活動を推進する必要性を確認しました。今後、県内各地区で実践の広がりが期待されます。



全体会 開会式



第3研究課題 健康相談

都留興讓館高校が来年4月に開校します

新しい学校づくり推進室

平成26年4月、現在の谷村工業高等学校の地に、谷村工業高等学校と桂高等学校を再編して、普通科・英語理数科・工業科からなる都留興讓館高等学校が開校します。それぞれの学科の特色をいかし、多様で専門性の高いカリキュラムを用意し、生徒の学習ニーズに応えると共に、様々な個性を持った生徒が相互に切磋琢磨することを通して、確かな学力と将来に対する明確な目標を持った人間を育成します。

◇校名ご応募ありがとうございました

校名の募集に際しては、多くの県民の皆様からご応募頂く中で、「都留興讓館」というすばらしい校名となりました。

た。地元で親しまれていて、なおかつ「おもいやりと謙譲の精神」を旨とするという校名に相応しい学校づくりに努めていきますので、今後も地域や県民の皆様のご協力をお願いいたします。

◇地域の中核となる学校を目指して

学習面は勿論のこと、県内最大となる学校規模を活かして初年度から28部を開設し、部活動にも力を入れていきます。また、地元の都留文科大学・隣接する産業技術短期大学校などをはじめ、幼小中・地域・地元企業・海外など、様々な連携の中で、地元で貢献し地域の中核となる学校を目指します。



学校説明会の様子



校章



校舎の完成予定図

山梨の文化財

重要文化財（考古資料）

山梨県酒呑場遺跡出土品（山梨県立考古博物館）

（平成二十五年六月十九日指定）

酒呑場遺跡は北杜市長坂町長坂上条にある縄文時代を中心とした集落遺跡です。平成六年度から平成十三年度にかけて数回の発掘調査が行われ、縄文時代前期後半（約六千年前）から縄文時代中期後半（約四千五百年前）の竪穴住居跡が二百三十軒以上も発見されました。竪穴住居跡やお墓と考えられる穴の中からはたくさんの土器や石器、土偶などが出土しました。これらの出土品のうち、六百八十三点が重要文化財に指定されています。

特に縄文時代中期の土器は、大きさや形にも様々なバリエーションが見られ、土器の表面や縁の部分に施された文様は、粘土を様々な形に組み合わせる複雑なデザインを形作っています。中には、蛇やイノシシを表現したと見られる文様や、赤ちゃんの



山梨県酒呑場遺跡出土品

誕生をイメージしたとされる文様もあります。これらの土器は一万年以上続く縄文時代の中でも、その製作技術や芸術的な表現方法が最高のレベルに達したことを示すものとして高く評価されています。

土器の他にも立体的で表情豊かな土偶や土鈴・耳飾りなどの土製品、土を掘る・木を切る・狩りをするなど目的によっていろいろな形に加工された石器・石製品などが出土しています。

これらの多彩な出土品は、中部地方周辺の縄文集落、あるいはそこに暮らしていた人々の様子を良く伝える資料として非常に貴重なものです。

主な行事予定

県立美術館

■特別展

「美術館からのクリスマスプレゼント&お年玉企画展 動物ものがたり」
12/14～1/19

■第38回「山梨県教職員文化展」

1/18(午後)～1/24

県立博物館

■「かいじあむ交流広場」

1/25～3/3

県立考古博物館

■冬季企画展「古代都留郡ものがたり」

12/14～2/2

■「第十一回わたしたちの研究室」

研究成果の展示 2/10～3/2

県立文学館

■「新収蔵品展 手書きの魅力」

1/25～3/23

表紙を飾る



甲府市立東小学校

3年 吉川 幸佑

作品タイトル
「一番の笑顔」

3年生になって初めての図工の時間に、自分の顔を描きました。目も、鼻も、口も、耳も、どこを見ても笑っている顔に見えるように、顔の形やしわなどに注意して描きました。目の形を整えるのがとても難しかったです。髪の毛は色鉛筆の全部の色を使って、一本一本でいねいに描きました。黒目やまゆげもたくさん色を使っています。いろいろな色を使って描くと最初はへんな色になると思っていたけれど、仕上げたら本物らしく見えてきてびっくりしました。とてもお気に入りの作品です。

指導者：堀江 雅人 教諭

「声かけ あいさつ」みんなで実践!!

- ◆教育に関する疑問、質問等がありましたらお気軽に E-mail 又は FAX して下さい。
アドレス：kyouikusom@pref.yamanashi.lg.jp FAX：055 - 223 - 1744
- ◆教育やまなしのバックナンバーがインターネットでご覧いただけます。
URL：http://www.pref.yamanashi.jp/kyouiku/46150769857.html